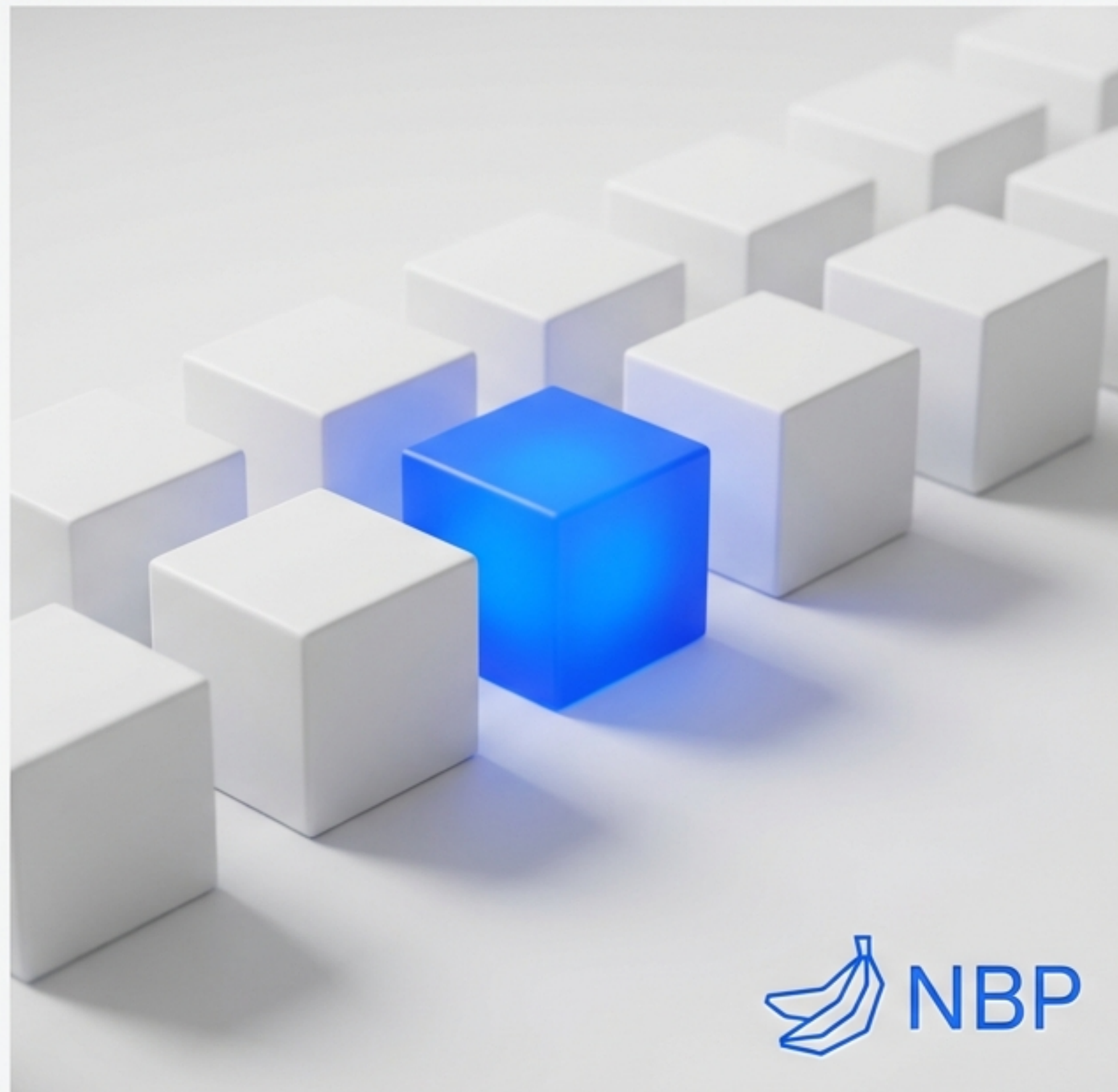


AI時代のプレゼン 資料作成術

Nano Banana Proで実現する、
揺ぎないビジュアル・
アイデンティティの確立



生成AIが生む新たな課題：「スタイルドリフト」という名の悪夢

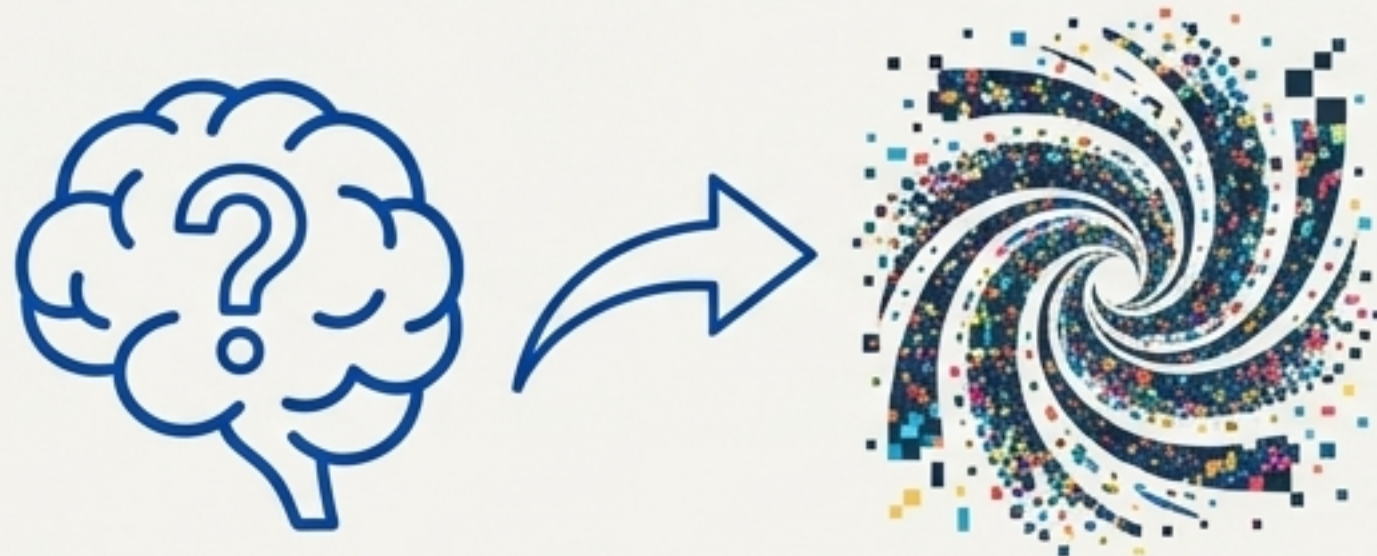
- 従来の生成AIは本質的に確率的（ストキャスティック）なプロセスに依存しているため、同じ指示でも毎回出力が変動します。
- 「会議室」と指示すれば、ある時は北欧風、ある時は映画風の画像が生成されてしまいます。
- この「**スタイルドリフト** (Style Drift)」は、プレゼン資料全体の統一感を損ない、ブランドの信頼性を低下させ、聴衆の認知負荷を増大させる致命的な問題です。



確率論からの脱却：Nano Banana Proは「描く」のではなく「思考」する

旧来のAI（確率的生成）

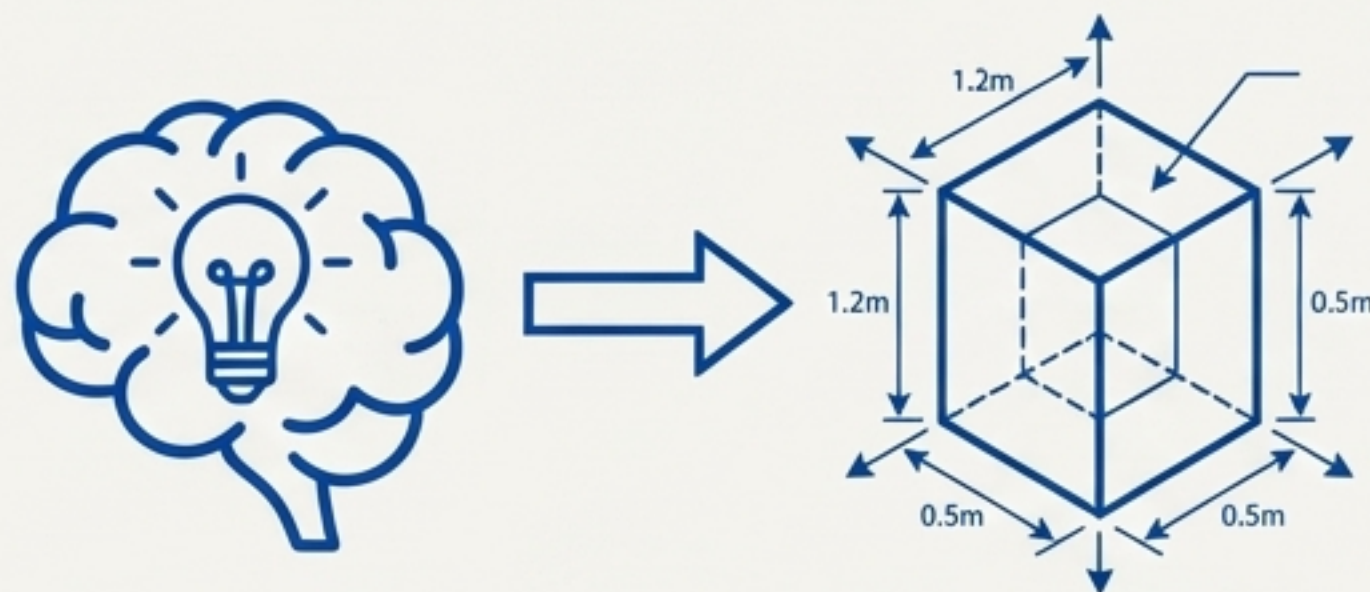
「スロットマシン」



- * ピクセルを操作し、ノイズから「最もそれらしい」画像を確率で構築。結果は予測不能。

Nano Banana Pro（論理的構築）

「クリエイティブ・ディレクター」



- * Gemini 3の高度な推論エンジンを基盤とする。プロンプトを解釈し、照明、空間、テクスチャの関係性を「建築的」に理解してからシーンを構築する。
- * この「視覚的思考」能力こそが、偶然性を排除し、意図通りのビジュアルを決定論的に生み出すための鍵となります。

スタイルを完全制御するための3つのコア戦略

Nano Banana Proの推論能力を最大限に引き出し、決定論的なビジュアル生成を実現するため、私たちは体系的な3つの戦略を提言します。

1



マルチモーダル・アンカー戦略
(Multimodal Anchor Strategy)

2



セマンティック・プロンプトエンジニアリング
(Semantic Prompt Engineering)

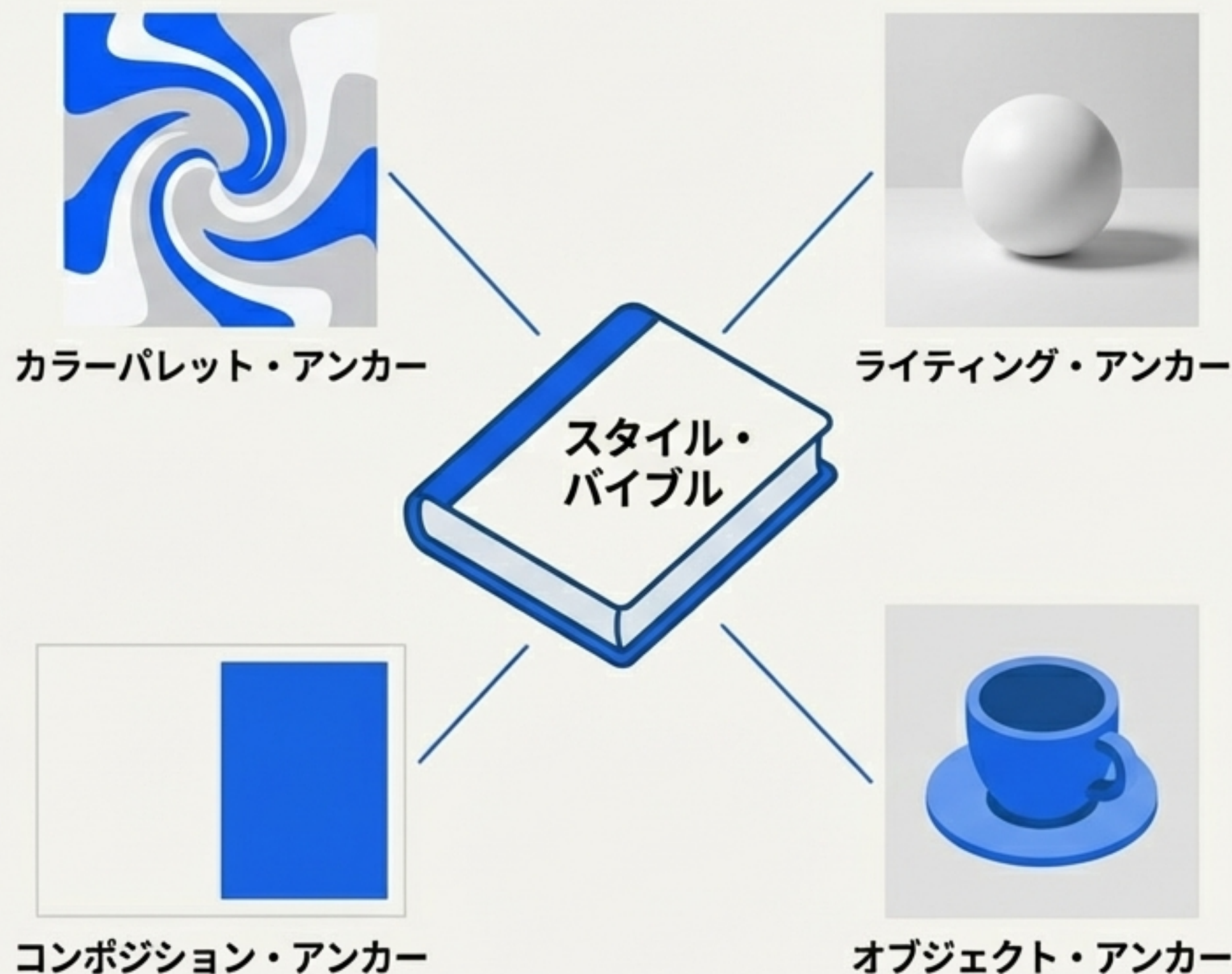
3



ワークフロー統合とネイティブ機能
(Workflow Integration & Native Features)

戦略1：言葉を越えた指示書「スタイル・バイブル」を構築する

- * Nano Banana Proは最大14枚の参照画像をコンテキストとして読み込みます。この機能を活用し、プロジェクトの視覚的ルールを定義する3～5枚の画像セット「スタイル・バイブル」を作成します。
- * これにより、言葉では表現しきれない微細なニュアンスをモデルに強制し、スタイルを特定の領域に固定します。



実践ワークフロー：「厳格なスタイル参照」でAIの解釈を固定する



1. **アップロード**: スタイル・バイブルとして選定した3～5枚の画像をアップロードします。



2. **指示の記述**: 画像を「スタイル」として扱うよう、プロンプト内で明示的に指示します。単にアップロードするだけでは、AIがそれを「被写体」と誤認する可能性があります。

プロンプト例 (Example Prompt):

アップロードした画像1と画像2を****厳格なスタイル参照 (Strict Style Reference)****として使用してください。画像3のカラーパレットを適用し、画像1の照明条件とテクスチャ感を再現してください。

そのスタイルで、[新しい被写体] を描画してください。

Before & After



適用前



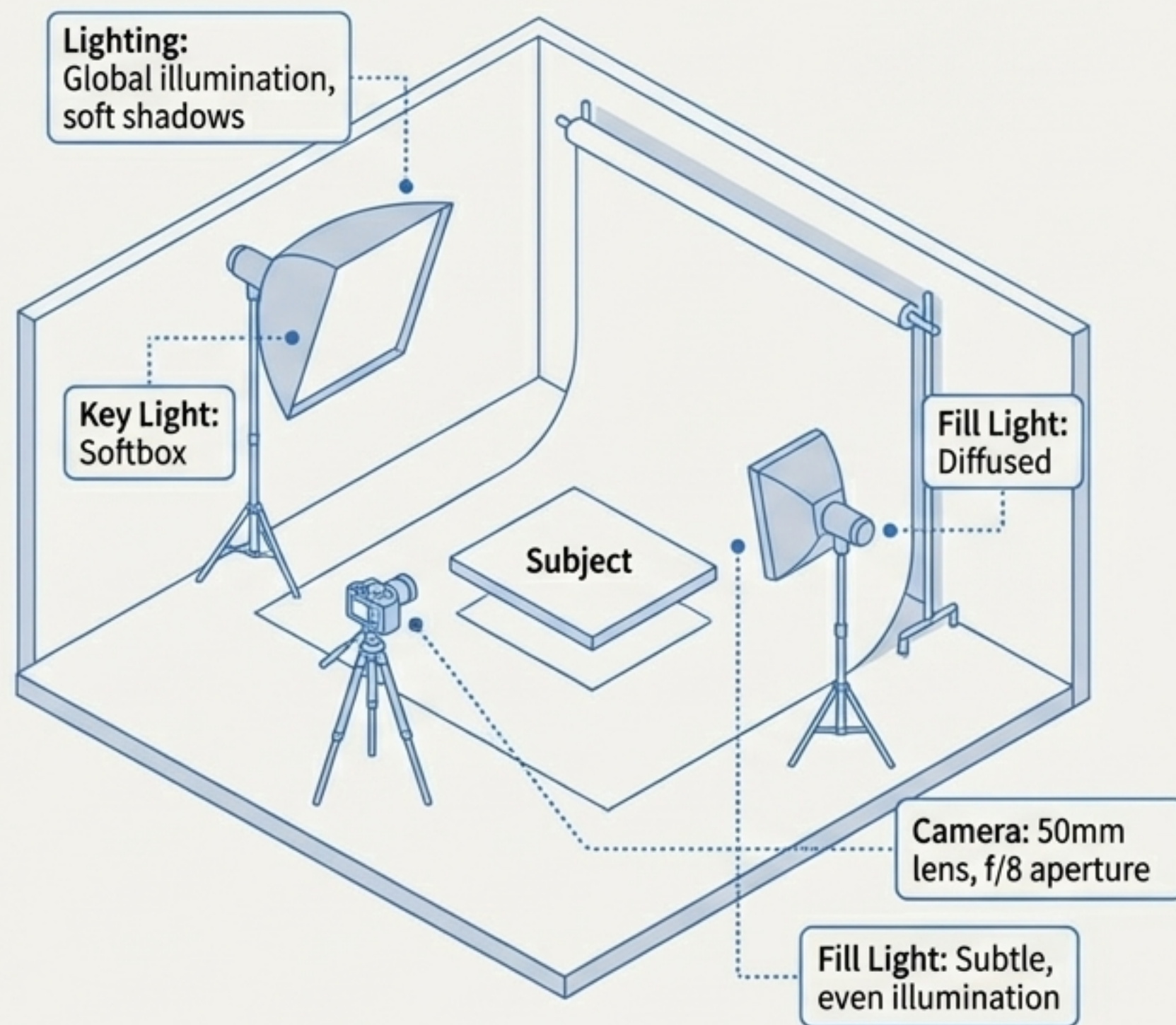
適用後

戦略2：「仮想スタジオ」プロトコルで撮影環境を定義する

- * Nano Banana Proは物理的な光のシミュレーション能力が高いため、感覚的な形容詞（例：「カッコいい」）を並べるよりも、撮影スタジオの環境を技術的に定義する方が、出力が劇的に安定します。
- * そのために、全てのプロンプトに共通して付加する「不変のスタイルブロック」を作成し、AIに毎回「同じスタジオ、同じカメラ、同じ照明」で撮影するよう強制します。

なぜこれが重要か (Why This Matters):

- * AIの推論の分岐（例：「成功＝サイバーパンク」か「成功＝ミニマル」か）を未然に防ぎ、解釈の余地を極限まで狭めます。
- * 特にカメラの「f値（絞り）」などを指定しないと、AIが勝手に背景をぼかすなど、意図しない演出を加えてしまいます。



コピーして使える不変のスタイルブロック

以下は、クリーンな企業向けスライド資料で高い効果を発揮するスタイルブロックの記述例です。
これをベースに、自社のトーン&マナーに合わせてカスタマイズしてください。

Style: Corporate Minimalist.

Lighting: Global illumination, soft shadows, high-key brightness, no harsh contrast.

Camera: 50mm lens, f/8 aperture (deep depth of field), isometric view.

Texture: Smooth vector art style, matte finish.

Color Palette: Cool grey background with accents of #0055FF.

Render: High fidelity, 4K resolution.



光の強さと影の質を定義



視点と被写界深度（ボケ感）を固定



素材の質感を指定



使用する色を限定

プロンプトの精度を高める：構造化とノイズ除去

スタイルブロックに加え、以下の2つの手法でAIの「読み落とし」や「暴走」を防ぎます。

構造化プロンプト (Structured Prompts)

長文よりも、役割・制約・被写体を明確に分離した形式が有効です。

```
### Role
Professional Presentation Designer

### Task
Generate an image for a slide about 'Growth'.

### Constraints
Style: Corporate Minimalist
Lighting: Softbox from top-left

### Subject Description
A single, elegant blue arrow pointing utwards.
```

統一されたネガティブプロンプト (Consistent Negative Prompts)

資料の品質を低下させる不要な要素を、全スライドで共通して除外します。

推奨ネガティブプロンプト (Recommended Negative Prompts):

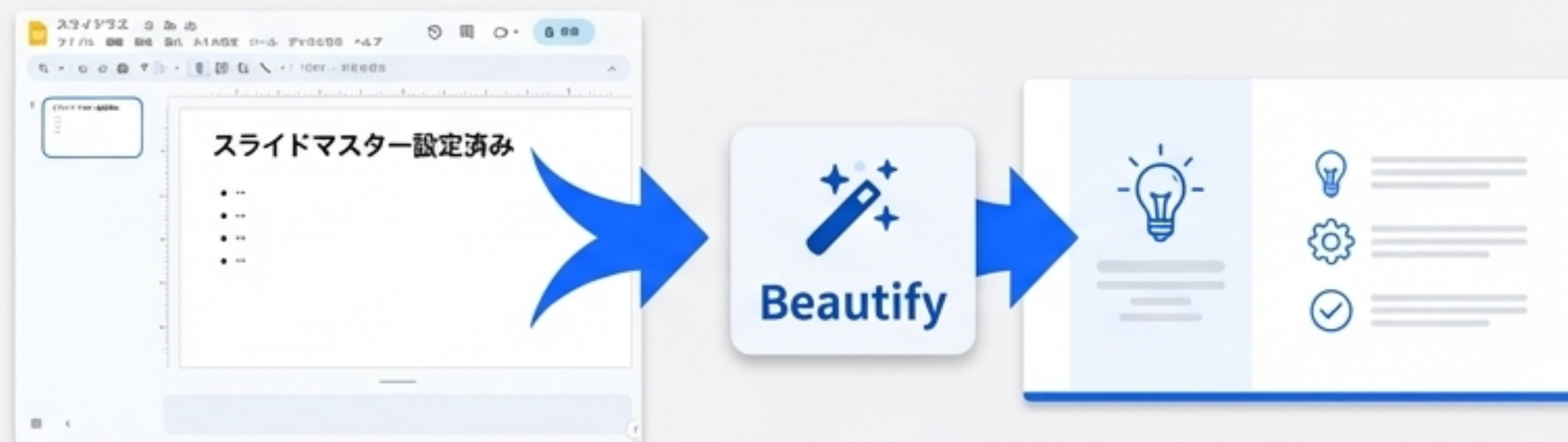
`blur, grain, noise, grunge, watermark, text, cartoon, oversaturated, dark, ~~moody~~, ~~cinematic vignetting~~, clutter, messy background`

🧠 **Key takeaway:** ビジネス資料では「cinematic」や「moody」といった単語は、意図せず暗くドラマチックになりすぎるため、積極的に除外することが推奨されます。

戦略3：Google Workspaceとの連携で一貫性を自動化する

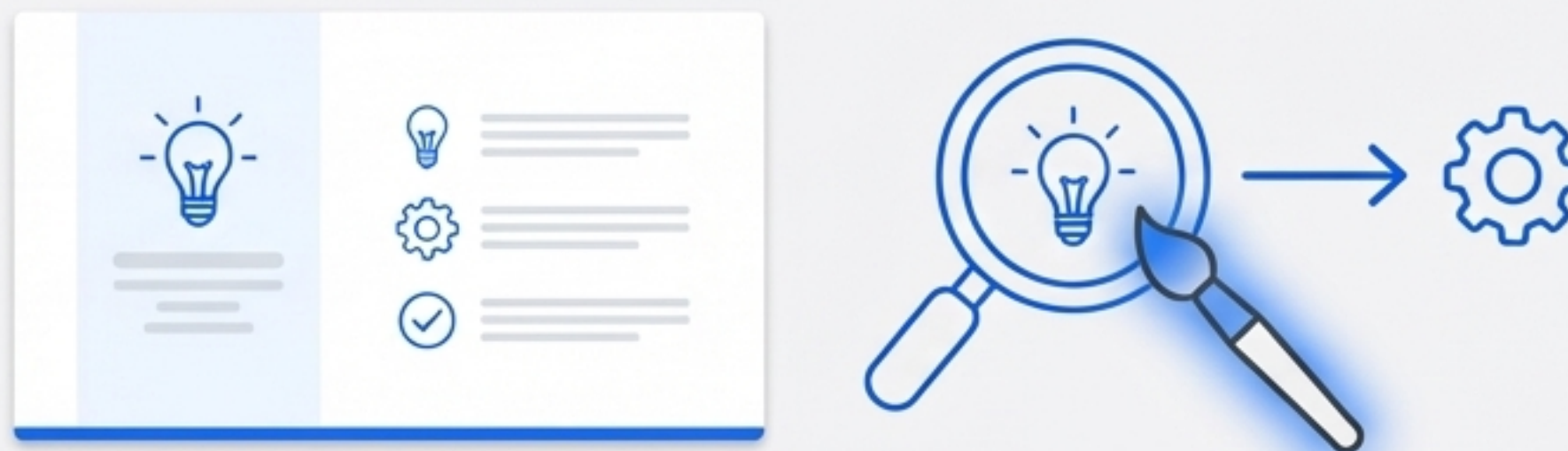
「このスライドを美化（Beautify this slide）」機能の活用

- この機能は、スライドに入力されたテキストを解析し、プロフェッショナルなデザインに自動変換します。
- 最大の利点は、スライドマスターで定義されたテーマ（フォント、色、背景）を参照する点です。
- 最初にスライドマスターを厳密に設定すれば、各ページで「Beautify」を実行するだけで、デッキ全体で統一されたビジュアルが生成されます。



「部分編集 (Inpainting)」による微修正

- スタイルは完璧だが一部だけ修正したい場合、インペインティング機能を使えば、周囲のスタイル（照明、質感）を維持したままオブジェクトの修正・置換が可能です。再生成によるスタイルドリフトを防ぎます。



高度なテクニック：グリッド生成で100%のスタイル一致を保証する

- * スライドで使う複数のアイコンやイラストを1つずつ生成すると、わずかなスタイルズレが生じます。
- * **解決策:** 1回のプロンプトで「複数のアイコンが並んだ1枚のシート」を生成させ、後からトリミングして使用します。
- * **なぜ有効か:** 1回の推論プロセスで生成されるため、照明計算、画風、線の太さなどが完全に同一になります。

プロンプト例 (Example Prompt):

「白背景に、青い総画スタイルで描かれた4つのアイコンのグリッドシート。左上：電球、右上：握手、左下：グラフ、右下：ターゲット。全てのアイコンは同じ線の太さとスタイルを持つこと。」



スタイル別プロンプトテンプレート集



企業向けミニマル (Corporate Minimalist)

- Knolling, Flat lay, High-key lighting, Soft shadows, Isometric, Negative space.

...arranged in a clean, flat-lay composition on a pure white background. Soft, shadowless studio lighting. Minimalist vector art style with a matte texture. Use a palette of Navy Blue and Light Grey.



テック・フューチャリスティック (Tech / Futuristic)

- Cyberpunk, Neon, Data flow, Glassmorphism, Dark mode, Glowing edges.

...visualization in a futuristic glassmorphism style. Dark background with glowing neon cyan data lines. 3D render with shallow depth of field focusing on the center object.



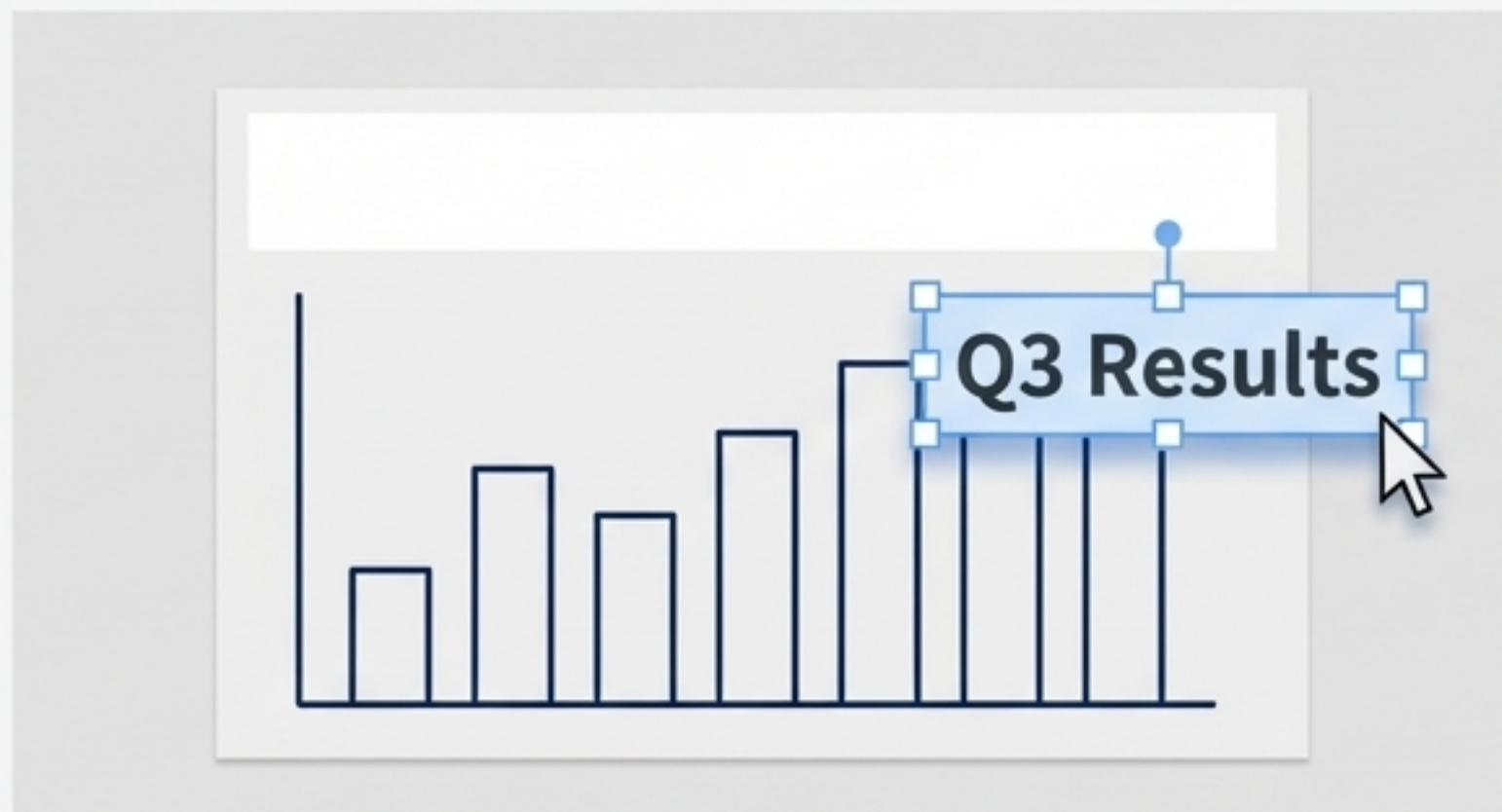
創造的・手書き風 (Creative / Hand-drawn)

- Watercolor, Sketch, Pencil drawing, Blueprint, Whiteboard, Organic lines.

A loose, gestural watercolor sketch of... Visible paper texture. Soft pastel colors. Architectural sketch style with pencil outlines. White background. Not photorealistic.

品質管理と企業利用における注意点

文字の崩れへの対処

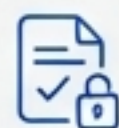


- **重要なテキスト（タイトル、数値）**はAIで無理に描画させず、スライドソフト側で後から追加の方が安全かつ確実です。
- AIへの指示は「**テキストを配置するための空白（Negative Space）**」を確保することに集中します。

透明性と著作権：「SynthID」



- Nano Banana Proが生成した全ての画像には、人間の目には見えない**電子透かし「SynthID」**が埋め込まれています。
- これは、画像がAI生成であることを技術的に証明するものです。



画質には影響しないため、社外向け資料でも問題なく使用できますが、商用利用に関する著作権補償の範囲は、Googleの最新規約を必ず確認してください。

AIの操縦者から、クリエイティブ・ディレクターへ

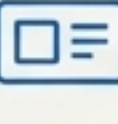
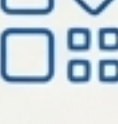
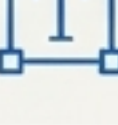
Nano Banana Proを単なる画像生成ツールから、一貫したブランドアセットを生み出す強力なデザインエンジンへと変えるには、AIの確率的なゆらぎを制御し、決定論的な結果を得るための明確な意志と技術が必要です。

推奨アクションプラン（Recommended Action Plan）：

- ① 1. 「スタイル・バイブル」を作成する: プロジェクトごとに色彩・照明・構図を定義した参照画像を用意し、常に「厳格な参照」として入力する。
- ② 2. 「不変のスタイルブロック」を適用する: 全てのプロンプトの末尾に、カメラやレンダリング設定の定型文を必ず付加する。
- ③ 3. ネイティブ機能と高度なテクニックを活用する: スライドマスターと「Beautify」機能を連携させ、アイコン等はグリッド生成で一括作成する。



スタイル統一のための最終チェックリスト

	項目	チェック内容	推奨アクション
	参照画像	スタイル・バイブルは設定したか？	3～5枚の定義画像をアップロードし、参照指示を行う。
	プロンプト	スタイルブロックは固定されているか？	照明、カメラ、レンダリング設定の記述を全スライドで統一する。
	ネガティブ	禁止事項は明記されているか？	`blur`、`noise`、`text`、`moody` 等の不要要素をリスト化して入力。
	コンテキスト	スライドマスターは設定されているか？	Googleスライドの「Beautify」機能やインペインティングで文脈を維持。
	アセット	アイコン等は個別生成していないか？	グリッド生成（Matrix Generation）でまとめて作成・切り出し。
	テキスト	重要な文字は画像に埋め込んでいないか？	スライドソフト側で入力し、画像にはテキスト用の余白を確保させる。